

学生のページ

第65回総会学術大会に参加して
—Strive Hard for One's Goal—金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻
川嶋広貴

はじめに

放射線技師である父親と2人、電車に乗り込み横浜に向かったことを昨日のように思います。2009年4月17日(金)～19日(日)にパシフィコ横浜で開催された総会学術大会に、参加させていただきました。本学術大会は、日本の放射線技術に関わる学会として最大規模のものであり、多くの人との出会いがあり、新たな刺激、そして知識の共有ができる場があります。そのため、目標を掲げ参加することに意義があると考えます。今回の総会学術大会における私の目標を以下に示します。

- 1) 演題発表を成功させること
- 2) 自分の研究テーマに関連する発表を多く聴くこと
(FPDや胸部に関する研究)
- 3) 最新機器をチェックすること
- 4) 他大学の学生5人以上と知り合いになること
- 5) 年上の方5人以上と名刺交換すること

この目標をいかに達成できたかを振り返りながら報告します。

演題発表を成功させる

今回の総会学術大会で、私はCyPos形式での発表でした。演題名は「胸部X線動態撮影の再現性の検証ーピクセル値の呼吸性変化ー」です。スライド作りや発表は、日本放射線技術学会のホームページにある「より良い学会発表をするために」を参考にして、少しオリジナリティを加えて発表するようにしました。これは、オススメです！さて、発表は原稿なしで、練習どおり行うことができました。しかし、質疑では会場から研究方法に関する厳しい指摘もありました。大学時代にご指導いただいた教授から研究報告のたびに「根拠は？」と聞かれていたことを思い出し、自分の勉強不足を感じました。結果的には、銀賞をいただきましたが、これは、金沢大学の先生方や研究室メンバーのおかげです。今後は、この受賞に恥じぬよう、指摘された点を修正し、論文での発表を目指します。



Photo 会場入り口にて、大学時代の先輩と

発表の聴講

伊藤春海先生の講演が最も印象的でした。本講演では、肺の解剖、病理そして画像とさまざまな側面から学ぶことができました。さらに「伊藤春海研究室」の部屋では、実際に手にとって、自分の体を動かして、学ぶことのできる空間は非常に有意義なものでした。標本の正常肺と疾患肺を手にした際の重量感の違いは忘れません。また、「専門技術者の目指すところ」の講演では、われわれの世代に求められていることを垣間見たように思います。高精度な医療機器を扱える“幅広く豊富な知識”，医療行為を支える“根拠の追求”，そして、良い画像を取得するための“画像を読める力”，これらを併せ持つ放射線技師になれるよう努力していきたいと思います。

最新機器のチェック

機器展示会場では、100年前のX線管が展示されていました。そのすぐ傍にはデュアルエネルギーサブトラクションやトモシンセシスの可能な機器があり、100年間での大きな放射線技術の進歩に驚くとともに、次の100年にはどんな未来が待っているのか想像せずにはいられませんでした。また、ポータブルの動画対応FPDの展示もありました。われわれの研究室では、動態画像の有用性について追い求めてきましたが、その積み重ねが、臨床で実現する日も近いの

ではないかと感じました。

知り合い作りと名刺交換

学生懇親会では、名古屋大学や徳島大学の方とそれぞれの研究室の雰囲気や研究内容など話すことができ、とても良い時間を過ごすことができました。

名刺交換は、2名の方と行いました。目標の5名に届かず、人から知識を引き出すためにも積極的にならねばなりません。次の学会参加では、私自身がFPDや胸部に関する知識を深め、その分野に精通する方との名刺交換を目指します。

おわりに

今回の学会は、演題発表や最新の動画対応FPDのチェック、他大学の学生との交流など、非常に充実したものでした。発表の聴講はもちろん大切ですが、頭や体を使って学ぶ、参加型のコーナーがあると大

変勉強になると思いました。今後とも積極的に学会参加することで、多くの方と出会い、新たな目標を見つけ奮闘していきたいと思います。

謝 辞

学生派遣として、このような機会を与えてくださいました。小寺吉衛学会長、小水 満大会長、大会実行委員会、日本放射線技術学会関係者の皆様、ならびに研究をご指導いただいている金沢大学医薬保健研究域 真田 茂先生、田中利恵先生に深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、私が所属しております金沢大学真田研究室のホームページを紹介させていただきます。活動報告を随時更新していく予定です。是非ご覧ください。

URL <http://sanadalab.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

学生のページ

第65回総会学術大会に参加して ～人とのつながりを実感する場所～



金沢大学大学院医学系研究科
坂口美喜

私が学会に参加する理由

ワークショップ「専門技術者の目指すところ」。これは学会でのスケジュールを組んだとき最初に聴くことを決めました。以前に本学会誌第65巻第3号の委員会報告を読み、専門技師認定制度について興味を持っていたからです。このワークショップでは大学院教育についても言及しており、自分は今何をすべきなのかを改めて考える良い機会になりました。私は将来臨床で働きながら研究を行っていきたいという思いがあります。この先放射線技術においても領域別に専門性が求められるようになるのであれば、自分の好きな分野をみつけて経験と実績を積み、専門技師としてニーズに応えたいと考えています。その一步を踏み出すために今後の研究活動の土台作りとして、この2年間でさまざまな分野の情報に触れる機会を多く持つことが必要だと思うのです。そして私がこの学会に参加する理由はここにあります。総会学術大会は放射線技術学のあらゆる分野が一挙に集結するため、非常に効率的に多分野の知識を吸収できます。知ら



Photo 小野口研究室withおいしい中華

ない単語をみつけ、それを持ち帰り調べるだけでも十分な収穫となります。そして学会は臨床経験のまだない私たち学生にとっては、臨床の現場の現状や問題点を知ることのできる貴重な場です。

初めて参加した2008年は、学会最終日の翌日が大学院の入学式でした。夜行で金沢に戻り、眠い目をこすりながら満開の桜の下入学式へ向かったことを

懐かしく思います。今回の学会に私は演題を持たず臨みました。発表がないことは少々寂しく感じましたが、その分新しい知識を多く得てしようと張り切って横浜へ向かいました。

出発前に準備したこと

学会参加前に予稿集を何度も読み、スケジュールを組んでおきました。かなり悩みながら作成したこのスケジュールのおかげで、当日は効率良く会場内を移動できました。会場内の位置関係を把握できていたのは、広い会場で迷子になり必要以上にうろろうした前回大会の経験によるものが大きいのですが。

CyPosで予習

前回活用できなかったのがCyPosでした。今回はとにかくピックアップした演題を、CyPosで予習してから発表を聴くようにしました。これが大正解。あらかじめ内容に目をとおしておくことで自分のなかの疑問点が明確となり、特に注目すべき部分を認識したうえで発表を聴くことができたので、理解が深まりました。今回はおもに予習のために使用したCyPosですが、まだまだ有効活用法はありそうです。

同級生の活躍

久しぶりに再会する友人たちが臨床で働きながら研究を行い、その成果を発表している姿は、私にとって今回の学会で最も刺激となりました。現場で着々と

経験を積んでいく彼らに対して正直焦りを感じることもありますが、それ以上に励みになり、自分も頑張らなくてはと思います。同じ目標に向かい4年間一緒に過ごしてきた同級生の存在の大きさを改めて感じました。

人とのつながり

私の所属する研究室には21名の社会人院生の方が在籍しており、学会のときにはお忙しい合間を縫って研究室の飲み会に参加していただきます。このAfter 17:00の飲み会は私にとって学会での一番の楽しみです。第一線で活躍されている技師の方々にアドバイスをいただける機会が身近にあるなんて、こんなにありがたいことはありません。研究を続けていきたいという思いを抱き、進学を決めるきっかけとなったのも、学部4年生の頃に社会人院生の方のお話を聞く機会に多く恵まれたことが大きかったと思います。学会は人とのつながりを持てる場所であり、ターニングポイントになる出会いがたくさんあります。

最後になりましたが

大学院も今年で2年目となりました。学生として参加する最後の総会学術大会に学生派遣という素晴らしい機会を与えてくださった、小寺吉衛学会長、小水満大会長ならびに総会学術大会実行委員の皆様、また、日頃研究をご指導いただいております、今回の応募を応援して下さった小野口昌久先生に深く感謝いたします。

学生のページ

第65回総会学術大会に参加して



九州大学大学院医学系学府保健学専攻医用量子線科学分野
坂口裕一

出発前に総会学術大会にどのような期待を持っていたか

日本放射線技術学会総会学術大会は2009年春で第65回を迎え、放射線技術に関して日本で行われる最も活発な学会であり、本大会に参加することは多くの面で私に刺激を与えてと考えていました。なぜなら、この学会を通して学べるものは自分次第で無限大にも広がり、また、ここで学んだものが今後の研究や臨床の場で有意義なものにつながることは言うまでもないからです。さらに、聴くだけでなく、発表という形

式で自分自身がそれまでやってきた研究内容を、多種にわたる専門分野の方々の議論場に投じること、その結果や考察はさらに深みが増した研究内容にすることができると考えられます。それは研究内容の進展や海外での発表、さらには論文の構成に非常に役立つものだと考えています。

私は、今までに大学4年と修士課程1年の二度、この総会に参加して、その二度の参加を通じて多くのものを学び、今春の発表に結びつけることができました。

した。昨年までは発表を聴く側でしたが、今回は実際に発表する立場ということで、学び、得られるものが一段と大きくなると期待して本大会に臨みました。

研究発表内容について満足できる結果が得られたか

私は核医学領域の研究を行っており、今回の総会ではPET/CTにおける呼吸性アーチファクトとその補正法に関する発表をしました。本学会の発表形式には口述発表とCyPos発表がありますが、今回は発表時間が3分と短いCyPos形式での発表でした。発表時間が短時間でしたので、研究内容をまとめる作業に大変苦労しました。しかし、短時間にまとめることで、研究内容の最重要項目を再確認できましたし、研究成果を伝えることは十分できたと考えています。

研究発表の成果は得られたか

今回、私が発表したのはファントムによる検討でした。しかし、そのセッションでは、実際に臨床で活躍されている先輩方の発表が多く、臨床例を示されている研究が多数ありました。それらの発表は、私と同様のテーマに対してより臨床に近い視点から研究課題や解決法を提示されていて、臨床現場を経験したことのない学生には大変興味深く学べる機会だと感じました。この先輩方の発表を聴くことで、私の研究

内容の課題がさらに明確になり、検討しなければならない新たなテーマを発見することもできました。

この経験を今後どのように生かしていきたいか

本総会を通じて、自分の研究が臨床の現場にどういうメリットを与えるかという最も根本的なテーマを改めて認識することができました。また、他の医療機関が抱えている課題やそれに対して行われている研究・解決策に関しても知ることができる絶好の機会となりました。この経験を生かし、放射線技師として臨床現場でいかに定量性と再現性を持った画像を提供できるか、患者に安心して放射線機器による診断を受けさせられるか、診断のスループットの効率をいかに向上していくか、など多くの課題に対してさらに深く追究していきたいと考えています。また、その視点を日本だけでなく、世界にも広げて行動していきたいと考えています。

日本放射線技術学会に期待すること

この総会には学生の発表も多数あり、それらを通して学生同士が切磋琢磨することもこの総会に参加することの意義であると感じています。このように学生の意識を高めることで、放射線技師の質を高め、その責任を担える人材の育成を期待しています。

学生のページ

第65回総会学術大会に参加して



九州大学大学院医学系学府保健学専攻
高橋慶多

全国規模の学会に初めて参加し、また発表する機会をいただき、自身の発表の準備と他の先生方の発表を聴くための準備をしっかりと行って、大きな期待と緊張のなか、会場に向かいました。以下に印象を述べます。

研究発表

私は「画像工学 LCD評価」のセッションで「2メガピクセル高輝度カラーLCDモニタとモノクロLCDモニタの検出能の比較」(演題番号 34)と「LCDモニタの輝度の違いが胸部腫瘍陰影の検出能に与える影響」(演題番号 35)の演題を口述で発表しました。これらの研

究は医療施設の急速なフィルムレス化に伴って医用画像表示装置のなかで特に液晶ディスプレイ(LCD)モニタの品質管理と性能評価が重要になっているなか、LCDモニタの明るさの違いやカラーとモノクロの違いが診断能にどのくらい影響するかを調べた内容です。演題発表の際には緊張しましたが、日頃から研究室のミーティングで発表を行っているおかげで会場からの質問にも私なりに答えることができたと思います。私は前者の演題で光栄にも学生賞をいただきました。また、両演題について座長推薦優秀研究発表として論文文化を薦めていただきました。たいへん嬉しく思い、自信を持つことができました。今後も、

「この実験の結果は、臨床現場にはどういう影響を与えるのか」など、常に実際の臨床を考えながら研究をしていきたいと思っています。

シンポジウムの聴講

特に印象に残ったのは画像分科会の「画像について語ろう：大学・病院・企業そして臨床での医用画像の研究を考える」、基調講演「大学、病院、企業そして臨床での医用画像の研究：どのような研究をするべきか?」というプログラムでした。ディスカッションに参加された先生方は工学系、保健学教育、臨床現場の診療放射線技師、企業の医療技術開発、放射線科医と、それぞれの立場から医用画像の研究に対するお話をされました。今後も研究を続けていきたいと思っている私にとって、多くのことを得ることができたプログラムだったと思います。

学会のための準備

私は、自分の発表の準備はもちろんのこと、他の先生方の発表を聴講するためにしっかりと準備することを本大会に参加することの抱負の一つとしていました。このことは事前に学会期間中の聴講スケジュールを作成し、興味のある発表の抄録を読むことである程度達成できたと考えています。しかし、本大会で一番残念だったのは発表を聞いて手を挙げて質問をすることができなかったということです。質問をすることで、その研究内容に対する発表者の考えを聞くことで自分の理解を深めることができます。しかし、本大会では質問ができそうな発表内容でも、「こんなことを聞いて発表者は変に思わないだろうか」や「貴重な質問の時間をこんな質問に割いてもいいのだろうか」などの雑念が頭をよぎってしまい、手を挙げるこ

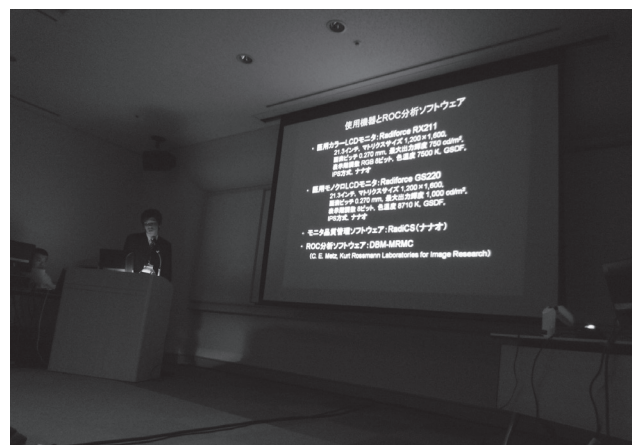


Photo 筆者の発表の様子

とができませんでした。このことに対する解決策は、他の人の質問をしっかりと聞くことだと思います。質問を聞いていると、同じような質問をしようと思っていたと感じることがたまにあります。また、その場でとっさに質問することが思いつかないなら、ある程度事前に興味のある研究に対して質問事項を考えておくのも一つの解決策になるかもしれません。よって今後は抄録を読むだけではなく質問内容を考えて学会に臨み、たくさんの質問をしようと思います。

謝 辞

私を総会学術大会への派遣学生会員に選出していただき、このような貴重な機会を与えてくださいました。小寺吉衛学会長、小水 満大会長、本学会関係者の皆様に深く感謝いたします。最後に、日頃から多大なるご指導をいただいている杜下淳次先生、大喜雅文先生をはじめ、九州大学の先生方に深く感謝するとともに御礼申し上げます。

学生のページ

第65回総会学術大会に参加して



北海道大学大学院保健科学院
谷川原綾子

はじめに

2009年4月17日～19日の3日間、パシフィコ横浜で開催された日本放射線技術学会第65回総会学術大会に学生会員として参加しました。この学会に参加

する目的は現在行っている研究を発展させるための知識やアイデアを得ることでした。私は画像処理の研究を行っています。現在、輪郭抽出手法の研究を行い、今後、臨床画像に適用していくことを考えてい

ます。この研究を行っていくうえで、画像処理やCADに関する知識は不可欠なものです。そこで、この学会で開かれるCADや画像処理のセッションに参加し、画像解析手法や臨床画像への適用例について勉強させていただき、今後の研究の参考にしていきたいと考えていました。また、画像処理の研究と同時にマンモグラフィのオントロジーについての研究も行っており、本学会ではこちらのテーマについて発表させていただきました。

画像処理の一般演題とセミナー

実際にセッションに参加してみると学生の発表者が多く、非常に刺激を受けました。一般演題とセミナーでは、面白い画像処理手法が使用されていたことや、私の研究に取り入れてみたい手法も多くて非常に勉強になりました。今後、このセッションで発表できるように研究に取り組んでいきたいと思いました。

研究発表について

今回、私は『マンモグラフィ検査ターミノロジーの構築』という演題を発表させていただきました。このターミノロジーはマンモグラフィ検査オントロジー構築のファーストステップとして構築しています。われわれの研究グループが目指すオントロジーとは、放射線検査における暗黙の知識を構造化することです。例えば、マンモグラフィでは患者ごとに撮影条件やカセットホルダの角度の設定を行うときの思考の流れを記述し、体系化することで新人技師の教育や技師間の知識共有を促進していくことができると考えています。また、現場で発生するリスクを記述することで、リスクマネジメントに応用できるのではないかと考えています。われわれのグループでは4題オントロジーに関する発表をさせていただいたのですが、質疑において、どのように利用するのかというところに一番関心が集まっていました。現場で働いておられ



Photo 研究室に関係する先生方と(左から2番目が筆者)

る方々の意見も伺いながら、今後どのような形で臨床に応用していくことがベストなのか深く議論する必要があると感じました。

学生賞受賞

私は上記の演題におきましてCyPos学生賞を受賞させていただきました。会場でCyPos閲覧中、受賞演題をクリックして私の名前を見つけたときは喜びよりも驚きの方が大きかったことを覚えています。これも、日頃指導してくださっている方々のおかげだと思っております。この賞を励みに今後も臨床現場に還元していくことを目標に研究を続けていきたいと思いました。

謝 辞

この度、第65回総会学術大会学生会員派遣に選出していただき、このような機会を与えていただいた小寺吉衛学会長ならびに小水 満大会長、大会実行委員会および日本放射線技術学会関係者の皆様、また日頃からご指導いただいている北海道大学小笠原克彦先生ならびに社会医療情報学研究室の皆様、共同研究者の方々に深く感謝いたします。